みんなで学ぶ〝おもてなし〟

貞山小 東京五輪パラ教育推進

相手を思う心が大事

2020年の東京五輪・パラリンピックを見据え、外国人旅行者などのもてなし方を学ぶ講座が7日に石巻市立貞山小学校（黒澤礼子校長）で開かれた。元日本航空客室乗務員（CA）で筑波大学客員教授の江上いずみさんが講師を務め、CA時代のエピソードを交えて、相手を思いやる〝おもてなしの心〟の大切さを伝えた。

相手が好感を持つ接し方をアドバイスした江上さん

スポーツ庁が進める東京五輪・パラリンピック教育推進事業の一環。この日は6年生35人と保護者や地域住民を対象に実施した。

東京五輪開催に伴い、組織委員会と東京都は計9万人以上のボランティア募集を見込んでいるほか、事前キャンプ地など全国の自治体でもボランティアの需要が高まっている。

江上さんはこれを踏まえ、「日本人の強みである〝おもてなしの心〟を知ってもらい、優しさと思いやりをもって外国人旅行者の皆さんを迎えてほしい」と講座の目的を説明した。

江上さんによると、おもてなしには心を以って行為を成す〝お持て成し〟と、表面的ではなく本心で接する〝表なし〟の2つの意味があるという。「CAは表裏ない本心で大切なお客様を迎えることを大切にしている。皆さんも心からのおもてなしで人と接するように心がけてほしい」とアドバイスした。

また「好感の持てる接し方を心掛けることで、相手の心も穏やかになる」と話し、第一印象を高める5原則として「表情、態度、身だしなみ、言葉遣い、あいさつ」を挙げた。

このうち全世界共通のあいさつである握手について、さまざまなルールやマナーがあることを教えた。江上さんは「グローバルマナーでは、相手の目をしっかりと見て頭は下げてはいけない。また手を差し出すのは目上の人から目下の人、女性から男性の順と決まっている。右手での不握手が原則だが手の不自由な人なら、左手を差し出してあげること」などと、相手に対する気遣いの大切さを伝えた。

児童たちは江上さんの話に真剣に耳を傾け、外国人との接し方の参考にしていた。川村淑乃さん(11)は、「以前、下校途中に外国人の方に眼科までの道を尋ねられたが、その時はうまく答えられなかった」という。そんな経験から「きょうの講座では相手の目を見て、心からのおもてなしの精神で接することが大切と学んだ。これからの生活に生かしていきたい」と話していた。

水まわりのトラブル解決します!
石巻地方広域水道企業団指定工事店
石巻市・女川町・東松島市排水設備指定工事店
㈱佐藤工業所
石巻市開成1番18 ☎22-0105(代)

石巻日日新聞 2017年12月8日